

助成事業実施報告書

団体名認定 NPO 法人フリースペース・うえるびー
代表者・役職名 氏名 代表理事 榎田浩幸

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

こども食堂=CC キッチン 子供と障がい児者がともに体験するイベント

2. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度

- 6月26日 子供と障がい児者で自分の防災バックの中身を用意する(防災意識の啓発)
- 7月24日 子供と障がい児者のものでつくり体験 缶バッチ、消しゴムはんこ、お手玉、布草履づくり
- 8月27日 子供と障がい児者のお寿司づくり調理実習
- 9月25日 子供と障がい児者で自分の防災バックの中身をチェックし入れ替える(防災意識の啓発)
- 10月25日 子供と障がい児者でカップケーキお菓子作り
- 11月3日 5日 6日 26日 子供と障がい児者でパンづくりとリースづくり
- 12月20日 子供と障がい児者でクリスマス会(地域の皆さんと一緒に)
- 1月22日 子供と障がい児者で着物を着てお散歩(高齢者グループに協力してもらう)
- 2月26日 子供と障がい児者でおにぎりのお雛様づくり
- 3月26日 子供と障がい児者にカレー無料サービス

3. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度

結果

本事業年度もコロナの波によって参加人数が大きく変動した。実施回数と参加者数は以下である。

6月 11人、7月 8人、8月 1人、9月 7人、10月 5人、11月 25人、12月 100余人、1月 12人 2月 10人 3月 30人

成果

障がい児者と子供たちがともにお菓子を作ったり講師のお話を聞いたりできた。歩けない子、しゃべれない子、じっと座ってられない子などがいても他の子供は緊張せずにあるがままに活動できた。障害があってもなかっても共に活動することを掲げている当法人の理念が実践できた。

社会的な変化

活動チラシを地域の2小学校と近隣自治会に配布した。子供たちも保護者も目にすることで子供の活動の場があること。障がい児者も一緒に活動できることを認識してもらえた。

事業が社会に与えた影響

各活動の終了時にお菓子や飲み物をプレゼントした。それらは企業やフードバンクや地域の方から頂いたもので、「周りのみんなが子供や障がい児者を応援しているよ」というメッセージを伝えた。

地域の皆さんからのいただき物も増えてきた。クリスマス会ではミニストップ、労金、フードバンク、ポケモンなどの協力で、抱えきれないプレゼントを持って帰った。

4. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字程度

課題は活動費の確保である。

もっと地元の企業からの寄付を得たいので、今年は企業にも活動チラシを配ることから始めてみたい。

今後もいろいろな助成金を申請しながら子供と障がい児者の体験イベントを続けていきたい

5. 参考資料

プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等のデータ。活動の様子がわかる写真などを必ず別途ご提供ください



